

## 令和7年度 山形県立山形東高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

○ 学校の教育目標 1 創造力に富み、心豊かでたくましい人間の育成 2 自主的・自律的に行動できる、個性豊かな人間の育成 3 広い視野を持ち、国際社会に貢献できる人間の育成

○ 本年度の評価 【評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった】

	重点目標	具体的目標・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学習指導	<p>【探究学習の推進による学力の向上】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自立した学習者を育成するため、自ら課題を発見し解決を図る探究学習を学校教育全体で推進する。</li> <li>2 全ての生徒の基礎学力充実のために、授業中心主義を徹底する。</li> <li>3 生徒の授業評価等をもとに授業改善や研究授業を通じた授業力の向上を図る。</li> <li>4 授業及び家庭学習において生徒用1人1台端末等のICTの効果的な活用を促進する。</li> </ol> <p>【読書習慣の形成と感性教育の推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 読書を心の糧とすべく、生徒が利用しやすい読書・学習の環境を整備する。</li> <li>6 芸術鑑賞の機会を多く設け、豊かな感性を養う。</li> <li>7 探究学習にも対応する図書館環境を整備し、その活用を支援する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に向けて、各教科で研究授業を年1回以上行う。また、他教科授業の互観を複数回行う。</li> <li>・毎日の家庭学習時間について、年次＋2時間以上を目標に取り組ませる。</li> <li>・生徒の探究活動の成果として校外発表を、年間のべ100件以上行い、東北ブロック以上の大会で入賞をめざす。</li> <li>・教科学習と読書のための図書館利用を積極的に推進する。</li> </ul>	B	<p>企画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢の変化に対応した授業のあり方の検討。</li> <li>・探究活動の成果を校外発表でのべ170件発表され目標を上回った。また、今年度も世界大会のブロック予選に出場するなど成果が見られた。</li> </ul> <p>教務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実情に合った課題の設定と学習の質を高めることの両立を図った。</li> <li>・4年目となった1学級1新聞は、配付が滞らないよう声掛けを行った。係は概ねよく動いてくれていたが、生徒が積極的に新聞を読んでいるかどうかは疑問が残る。より生徒の関心を高め、積極的な利用につながる方法について模索していかなければならない。</li> </ul>	<p>企画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課として研究授業の運用について見直していくと同時に授業のあり方について各教科で継続して検討していくことを求めている。</li> <li>・探究活動の意義について教員・生徒が感じられるようなしなかけを検討していきたい。</li> </ul> <p>教務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅進者対策として、学習時間の確保など基本的な学習習慣の確立のための手立てを教科、年次と連携して考えていく。</li> <li>・授業や探究活動等における図書館利用について、教科や他分掌と連携を密にして使用希望のある資料を整備していきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動では、生徒自らが課題解決に取り組み、各種大会でその成果が認められ、生徒にとって自信に繋がっているとされる。</li> <li>・校外発表のべ数の大幅増および世界大会への出場を評価する。山形東高として、生徒の何割が校外発表できる状態が望ましいかについても目標として検討してほしい。</li> <li>・探究学習にも対応する図書館環境とは具体的に何か、もう少し情報がほしい。</li> <li>・オーチス社が主催するプレゼンテーション大会のアジア太平洋地域大会で、山形東高の6人チームが優勝したのは誇るべき成果。後輩たちも物おじすることなく挑戦を続けていくよう期待する。</li> <li>・1学級1新聞については、生徒が新聞をもっと積極的に活用してくれることを望む。</li> </ul>
進路指導	<p>【キャリア教育の推進と進路指導の充実】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒が自己の在り方生き方を考え、進路選択・決定とその実現に向けた努力ができるように、「学びのストーリー」に基づいたキャリア教育を推進する。</li> <li>2 3年間を見通した進路指導を行うため、各年次で必要な指導について共通理解を持って進める。</li> <li>3 多様な入試制度に対応し、高い進路志望を実現するための指導方法について研究を深める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難関大および医学部医学科の合格者70名以上をめざす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びのストーリー」を軸として、生徒も教員も指導とその振り返りにあたっている。今後も具体的な指標を更新して指導にあたる必要がある。</li> <li>・今年度も東北大オープンキャンパス参加や東大キャンパスツアー等を企画・実施し、志望層の厚さを維持している。</li> <li>・3年次と協力しながら学校推薦型・総合型選抜への全職員での指導体制をとることができ、成果が見られた。引き続き早期の学力完成や出願書類の完成を目指す。</li> <li>・郷土研修を含め、1年次前半での職業観の涵養を中心としたキャリア教育事業を今年度も行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力考査を含む本校としての進路指導の意義や効果を常に議論し、小グループ毎の会議も設定しながら、教員全員が自信を持ってそれぞれの生徒指導に当たるようにしたい。</li> <li>・学校推薦型・総合型選抜入試の出願にあたっては引き続き、より効率的かつ効果的な方法をとることができるよう研究し、改善する。</li> <li>・進路志望実現に不可欠な「圧倒的基礎力」の徹底を常に意識する指導を確認していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土研修は県内企業を知るうえで貴重な機会となっており、今後も継続してほしい。</li> <li>・難関大と医学部医学科の合格者数を増やすことを目の前の目標に掲げるのは大切なこと。同時に、進学でいったんは山形を離れたとしても、将来は戻って郷土の将来を担っていくという意欲や職業観を養う機会を充実させる必要があるのではないかと。</li> </ul>
生徒指導	<p>【いのちの教育と生徒指導の充実】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間の個性や特性をよく理解し、かけがえない自分の「いのち」と他者の「いのち」を尊重する姿勢を育む。</li> <li>2 生徒理解を図るとともに家庭との連携を深め、健全で充実した学校生活の基盤を形成する。</li> <li>3 学校行事や生徒会活動、探究活動等を充実させ、自己実現を図り、連帯感を醸成する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いのち」にかかわる重大交通事故がゼロとなるよう、事故の未然防止に努める。</li> <li>・毎月の出席率平均について、99.0%以上をめざす。</li> <li>・部活動等で団体5種目以上、個人種目10人以上の全国大会出場をめざす。</li> <li>・社会参加・ボランティアに関連する各種情報を定期的に紹介し、参加しやすい環境を整える。</li> </ul>	B	<p>生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種特別活動や行事等において、感染症や熱中症、天候の変化等に注意を払いながら、臨機応変に対応し、安全に運営することが出来た。</li> </ul> <p>教務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス流行以前の出席率に少しずつ戻っているが、欠席が目立つ生徒も多い。</li> </ul>	<p>生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心な学校生活の実現に向け、SNSの利用、交通安全への注意喚起、及び部室管理を徹底する。</li> </ul> <p>教務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に向かって努力することと心身ともに無理のない学校生活を送ることが両立できるよう、保健課や年次などと連携していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代を見ていると、組織内の体制や指示に従順すぎたり、打たれ弱かったりする傾向が以前より強いように感じられる。他者に優しく、しかも自らの内面は強靱な生徒を、部活動などを通して育成してほしい。</li> </ul>
健康安全・環境整備	<p>【健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒及び教職員の心身の健康の維持・増進を図る。</li> <li>2 危機管理体制をハード・ソフト両面から整備し、災害・事故の防止に努める。</li> <li>3 学習環境の整備・保全とその美化に努める。</li> <li>4 感染症及び熱中症等の予防対策を講じ、生徒の安全確保に努める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒保健委員会の「生徒保健だより」年間8回、保健課発行の保健室だよりを年間8回発行して、心身の健康の保持増進を図る。</li> <li>・年18回のカウンセラー相談日を設定し、生徒・保護者との教育相談活動を充実させる。</li> <li>・清掃徹底日（毎週水曜日）と月例大掃除の取組みにより、校舎内外の環境美化に努める。</li> <li>・防災・災害対応訓練を年4回行い、危機管理意識の高揚と生活・校舎の安全を図る。</li> </ul>	A	<p>保健</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健だより等は概ね予定どおり発行することができた。</li> <li>・サポート委員会を年間4回開催し、支援を必要とする生徒への共通理解を図ることができた</li> <li>・ゴミの分別を徹底し、生徒や職員の環境保全意識の向上を図ることができた。</li> </ul> <p>総務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・災害対応訓練を年5回実施することができた。定期的（毎月1回）に校舎の安全点検を実施することができた。</li> </ul>	<p>保健</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な清掃活動、ゴミの分別に取り組み、校舎内外の環境美化を進める。</li> <li>・職員間の連携を密にし、全職員の共通理解のもと、生徒の支援にあたる。</li> <li>・学校行事における感染症対策の徹底を図る。</li> </ul> <p>総務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎の老朽化に伴い、危険箇所や修繕箇所は今後も増加することが見込まれる。安全点検等を通して、現状把握や情報収集に努め、改善の手立てを考える必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎の老朽化について、予算が厳しい状況だとは思いますがぜひ少しずつ改善していただきたい。校舎の老朽化への対策は、10年後、20年後の予測をもとに、計画的な予算立てにつながるような情報を集めてほしい。</li> <li>・学校側との懇談会の機会に校舎の現状について聞いたり見たりして、老朽化が進んでいることが分かった。後手に回って生徒に悪影響をもたらすことがないように、県教委と連携して対応を進めてほしい。</li> </ul>
家庭地域との連携	<p>【地域連携の促進と郷土愛の醸成】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域の魅力や課題をよく理解し、郷土やまがたに対する誇りと愛着を持った生徒を育てる。</li> <li>2 探究活動や社会参加活動において、地域との連携と外部人材の活用を促進する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会・研修会（公開授業を実施）の出席率70%以上をめざす。</li> <li>・PTA会報を定期的に発行するとともに、保護者・学校評議員等の意見を聴き、経営改善に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会の出席率は、1年次82.3%、2年次84.7%、3年次88.6%、全体では85.2%であった。</li> <li>・年次PTA研修会も、1年次88.2%、2年次76.0%、3年次81.1%の出席率で、今年度も全体的に高い出席率であった。</li> <li>・PTA会報の発行（年2回）、学校評議員との懇談会（年2回）は予定通りに行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種アンケートや行事等を通して、保護者や地域の意見を把握し、学校・家庭・地域との連携強化に努める。</li> <li>・地域で活躍する卒業生や県内企業・研究機関とのネットワークの整備を進め、より充実した社会に開かれた教育課程を通して、郷土愛のさらなる涵養に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校・家庭・地域との連携強化」の良い見本となるよう、他校、他地域への好ましい影響も期待する。</li> </ul>
学校運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとり創造運動を推進し、行事や講習等に伴う代休措置の取得率100%をめざす。</li> <li>・「エコ・環境保護」を合言葉に水道、光熱費及び消耗品費等の節約に努める。</li> </ul>	B	<p>教頭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜講習等の勤務振替措置の取得率は各年次とも100%であった。</li> </ul> <p>事務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費は、電気、灯油の使用量が昨年度を上回る見込みである。</li> </ul>	<p>教頭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化等を通し、働き方改革を一層推進する</li> </ul> <p>事務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコ・校内生活環境改善の両面から冷暖房設備の適正稼働に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年夏の暑さが厳しくなっており、光熱費が多くなることはやむを得ない。</li> <li>・引き続き教員の働き方改革に取り組んでほしい。</li> <li>・ワークライフバランスからワークライフインテグレーションへとさらなる意識のシフトも期待する。</li> </ul>